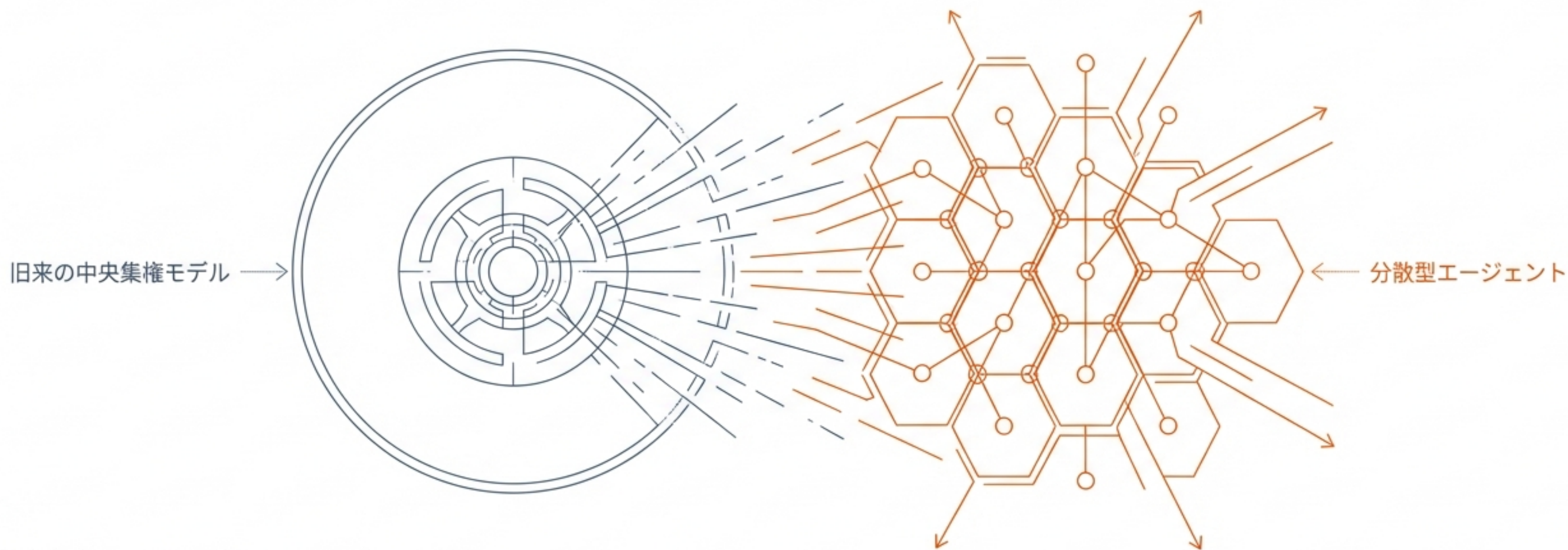


2026年 AI競争の深層分析：中国勢の台頭とエージェントモFモデルへの転換

「IQ競争」から「実務遂行力」へ——AlibabaとMoonshot AIが描く新秩序

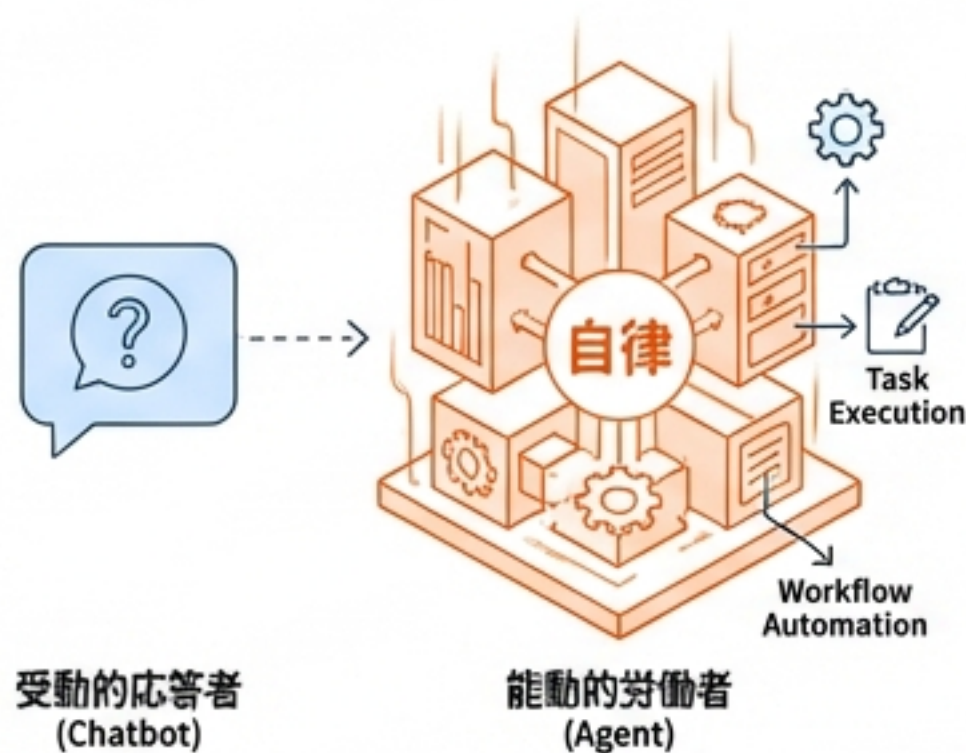


2026年1月の転換点：LLMからLAM（Large Agentic Model）へ

競争の軸は「対話・記憶」から「自律的な実務遂行」へと不可逆的に移行した。

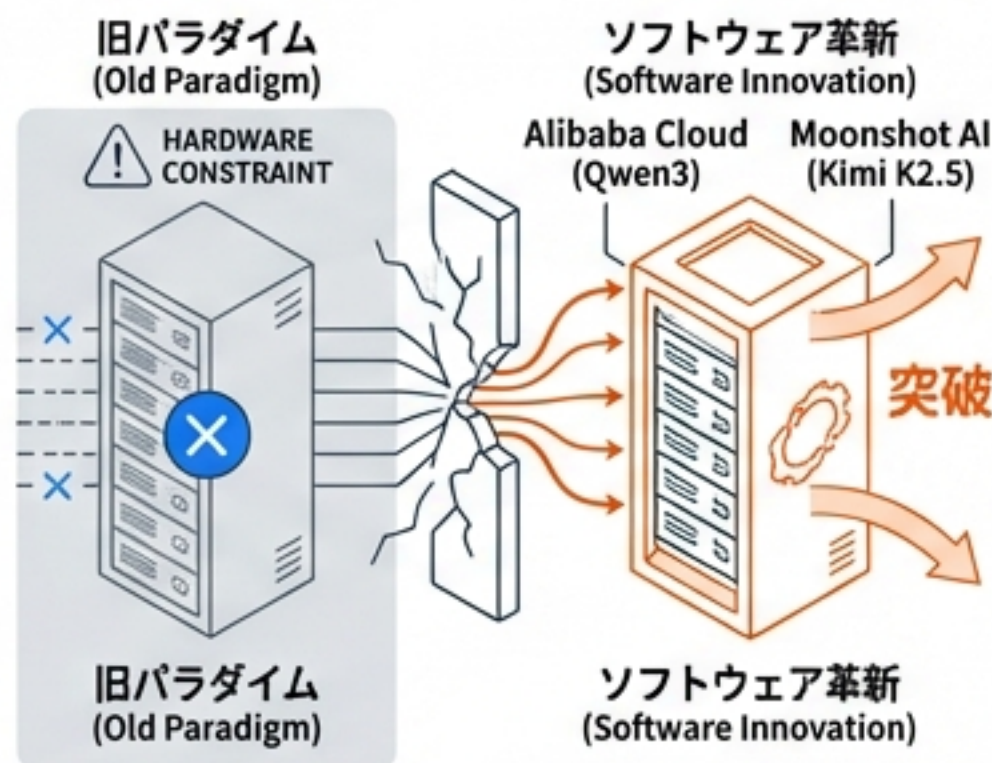
01 パラダイムシフト

AIの定義が「受動的な応答者（Chatbot）」から「能動的な労働者（Agent）」へ変化。



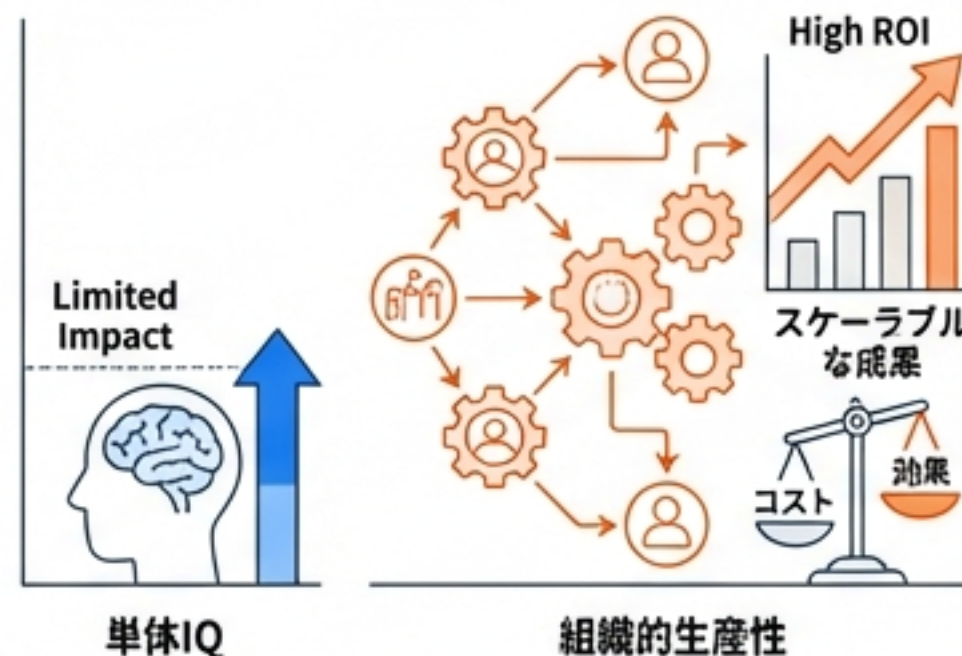
02 プレイヤーの交代

Alibaba Cloud (Qwen3) と Moonshot AI (Kimi K2.5) が、ソフトウェアアーキテクチャの革新でハードウェアの制約を突破。



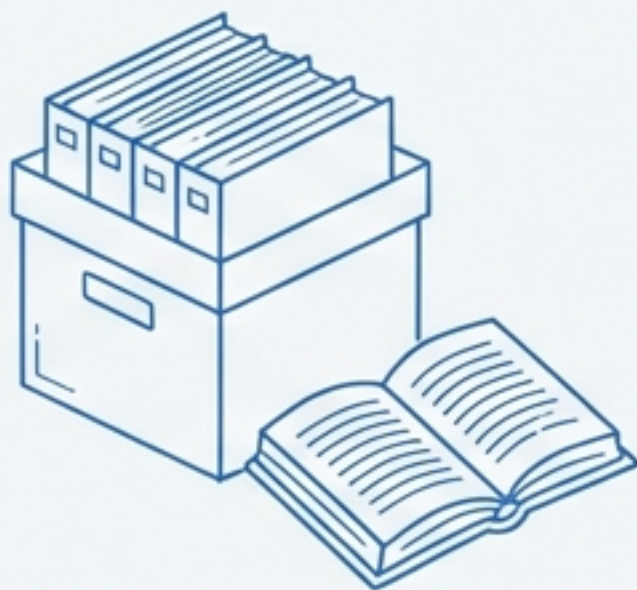
03 新・勝利条件

単体の知能（IQ）ではなく、コスト対効果の高い「組織的生産性」が勝敗を決する。



静的な「知識」から、動的な「行動」へ

～2025 Era: 受動的チャットボット



- **Core:** 知識の圧縮
(Compressed Knowledge)
- **Weakness:**
情報の陳腐化と幻覚
(Obsolescence & Hallucinations)
- **Metric:**
What it knows (知識量)

2026 Jan～: 自律型エージェント

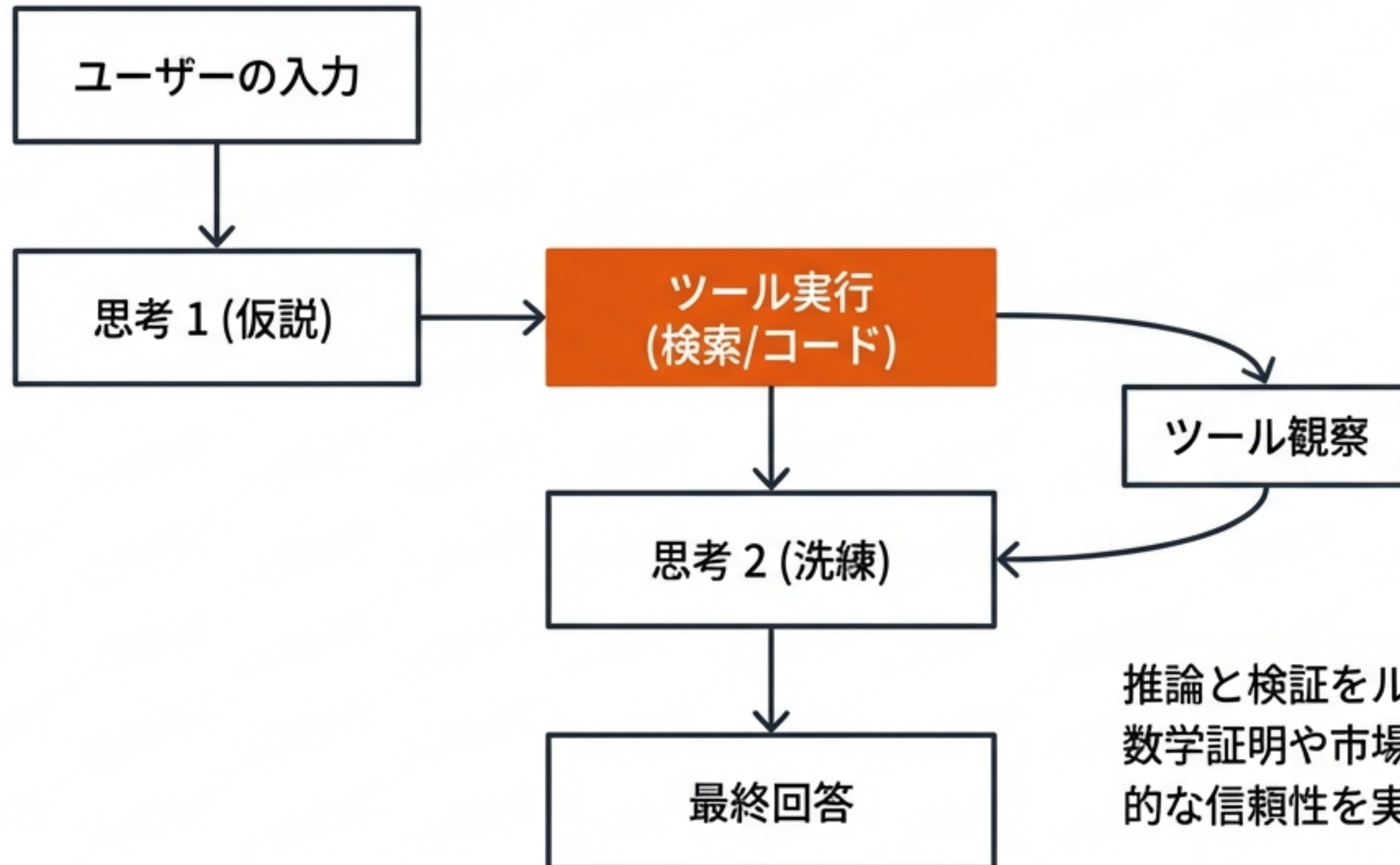


- **Core:** 推論+ツール+行動
(Reasoning + Tools + Action)
- **Strength:**
都度検索・検証・論理構築
(Dynamic retrieval & Verification)
- **Metric:** What it can do
(実務遂行能力)

2026年のフロンティアモデルは、内部パラメータの暗記量ではなく、
外部世界への「介入能力」で評価される。

Case Study A: Alibaba 'Qwen3-Max-Thinking' —— 思考へのツール統合

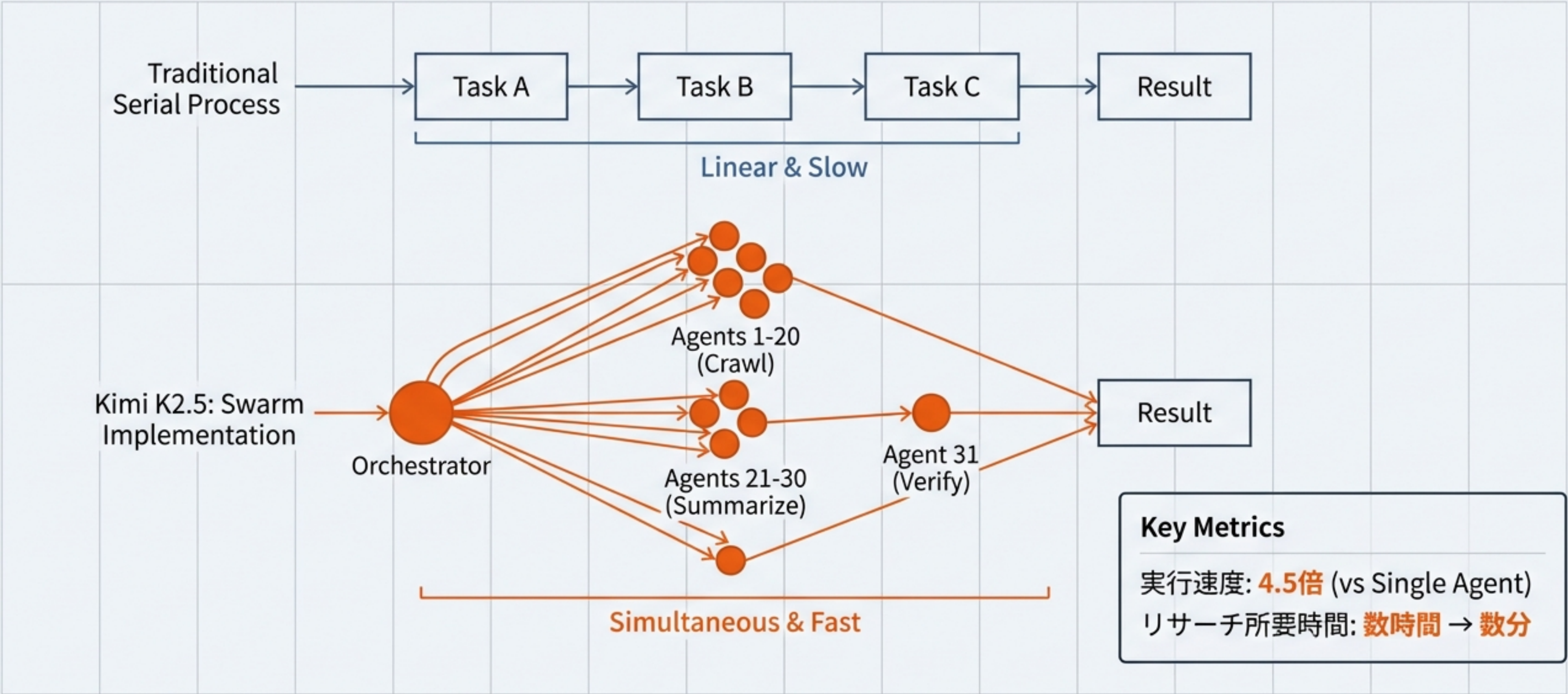
Thinking with Tools: 思考プロセスそのものに外部ツールの利用が組み込まれている。



推論と検証をループさせることで、
数学証明や市場分析において圧倒
的な信頼性を実現。

Case Study B: Moonshot AI 'Kimi K2.5' —— 群知能（Swarm）の実装

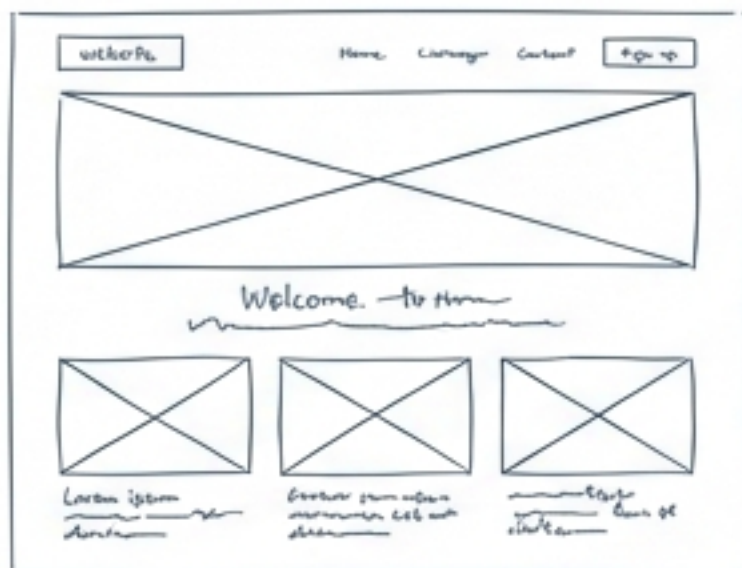
Agent Swarm: 単体の巨大モデルではなく、オーケストレーターが最大100体のサブエージェントを指揮。



ネイティブ・マルチモーダルと「Vision-to-Code」革命

画像をテキスト変換せず、視覚トークンとして直接処理するネイティブ実装。

Input: Sketch / Screenshot



Agentic Orange

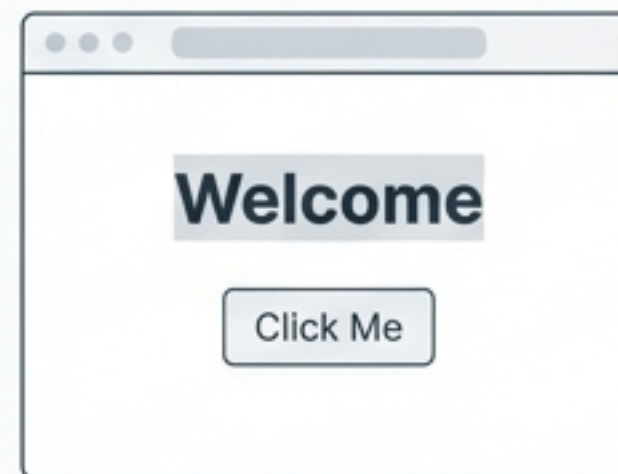
Vision-to-Code
(Native Processing)
Noto Sans JP

Output: Functional Code

```
import React from 'react';

function App() {
  return (
    <div className="container">
      <h1>Welcome</h1>
      <button>Click Me</button>
    </div>
  );
}

export default App;
```



Use Case:

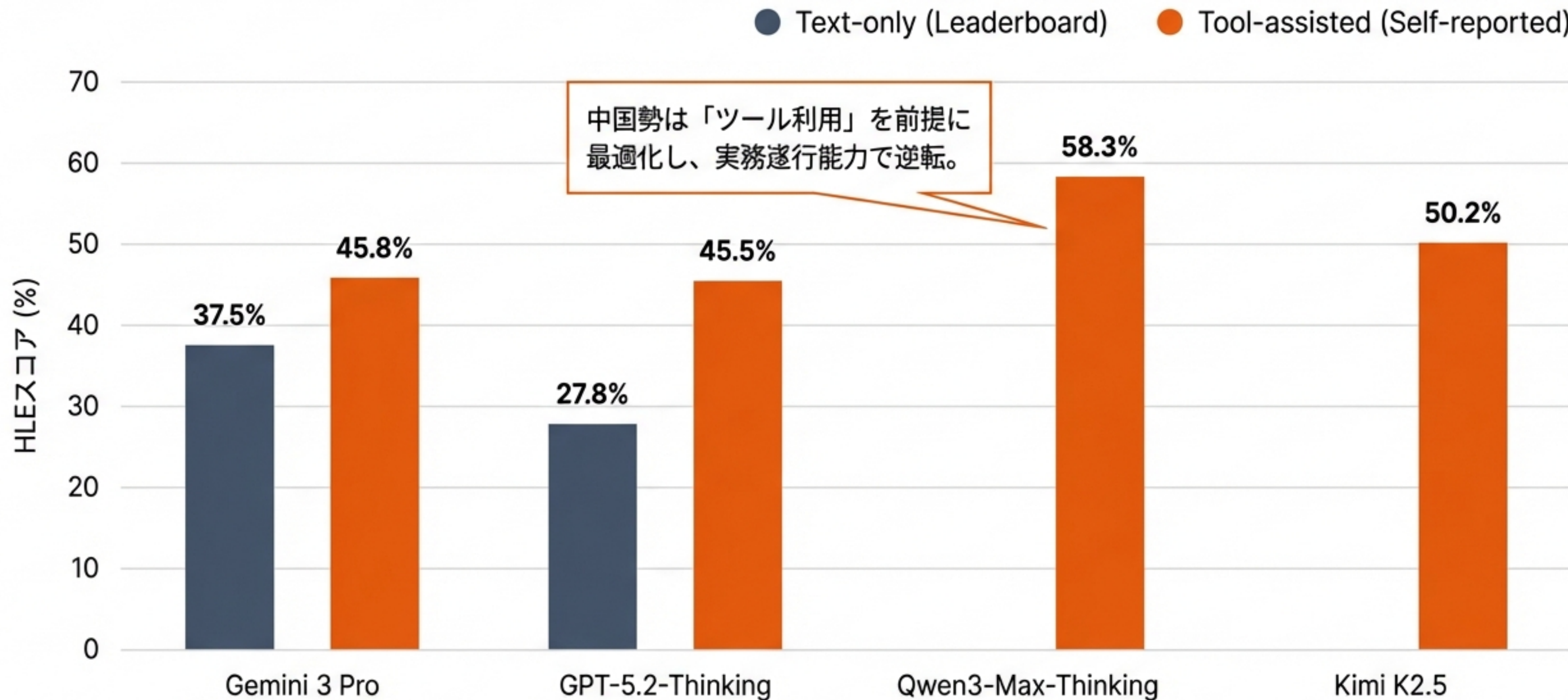
UI Implementation &
Visual Debugging
(AIが画面を「見て」バグを修正)

Strategy:

Open Weights (1.04T params) to challenge
Meta's Llama.
エンタープライズのオンプレミス需要を掌握。

ベンチマークの真実：IQ（テキスト）と実務（ツール利用）の乖離

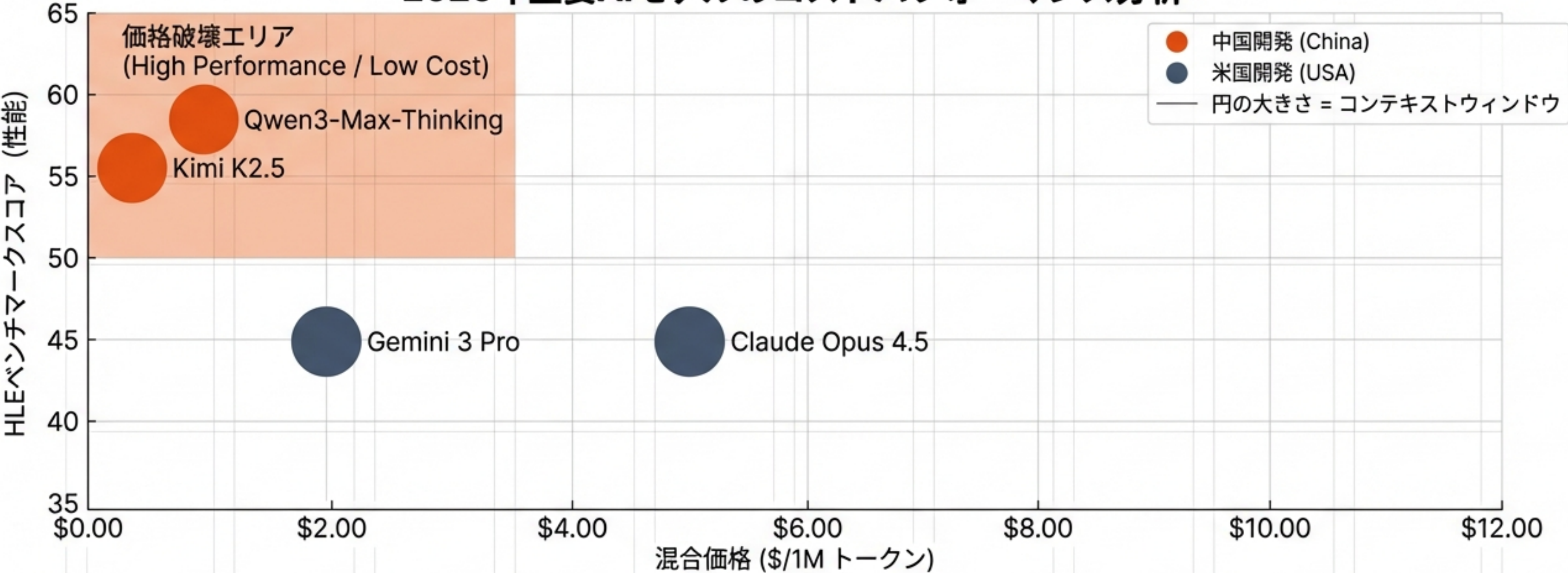
「Humanity's Last Exam (HLE)」におけるスコア分析。ツール利用を前提とした「カンニング」が実務の標準へ。



推論のコモディティ化と「価格破壊」戦略

エージェント実装を現実にする圧倒的なコストリーダーシップ。

2026年主要AIモデルのコストパフォーマンス分析



低コストが大量の推論（思考ループ）を許容し、複雑なエージェントワークフローの社会実装を加速させる。

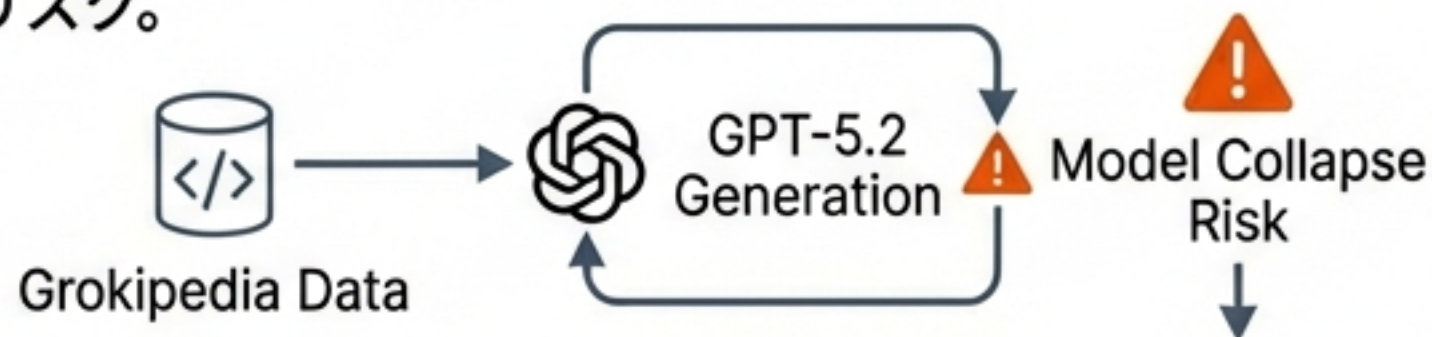
米国勢の現状とジレンマ：覇権維持への模索

米国の主要AI企業の戦略、課題、および将来への影響に関する分析。

OpenAI (GPT-5.2)



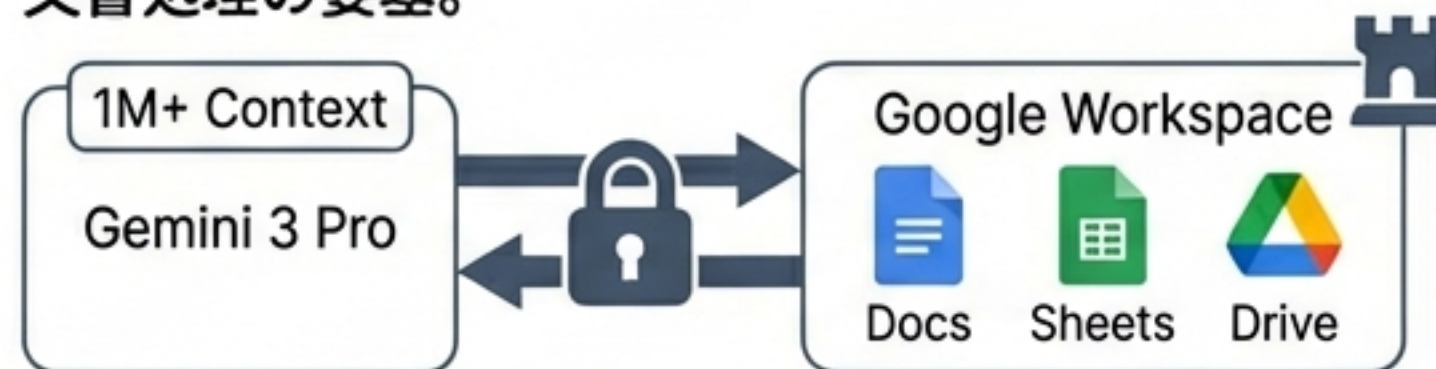
- Focus: Deep Research
- **Information Incest (情報の近親相姦)**。競合 (Grokikipedia) の生成データを引用する「モデル崩壊」リスク。



Google (Gemini 3 Pro)



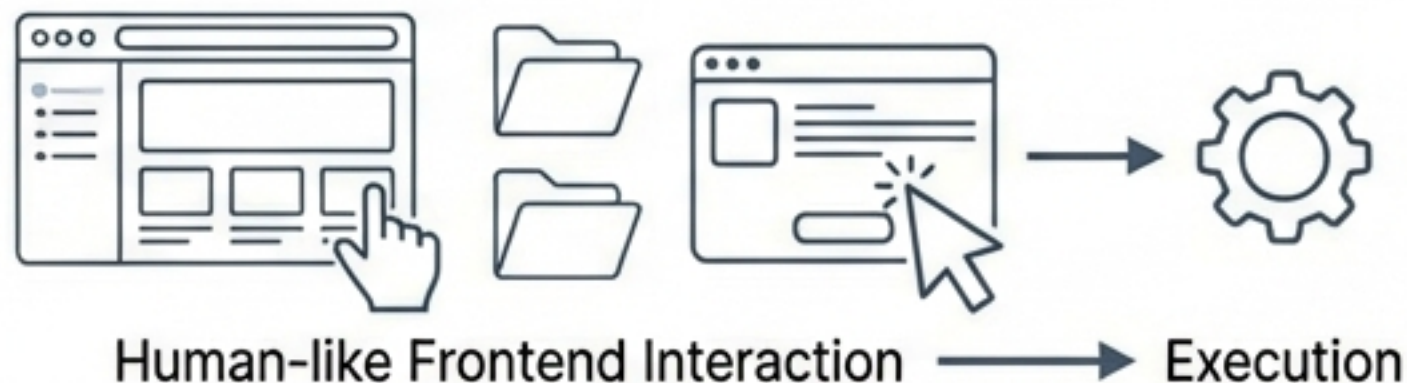
- Focus: **Ecosystem Lock-in**
- Strength: 1M+ コンテキストとWorkspace連携。既存文書処理の要塞。



Anthropic (Claude)



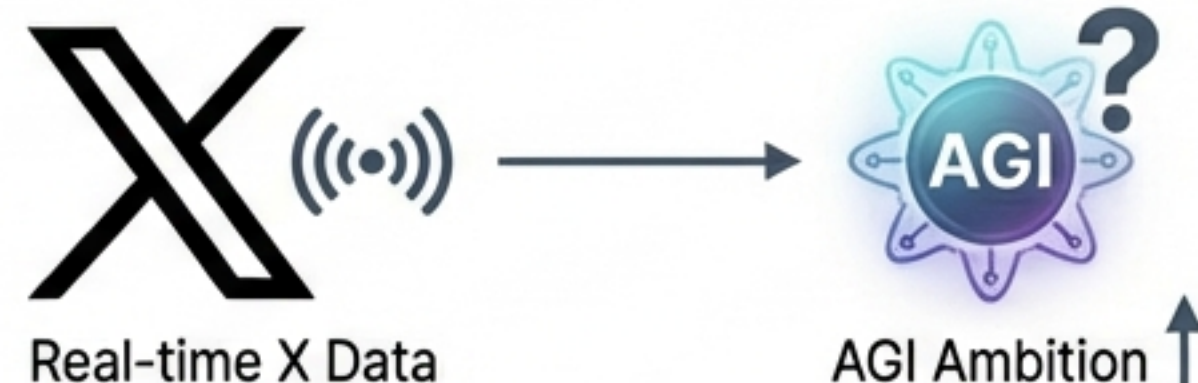
- Focus: **Computer Use (GUI)**
- Strategy: 人間と同じ画面操作 (フロントエンド) に特化。



xAI (Grok)

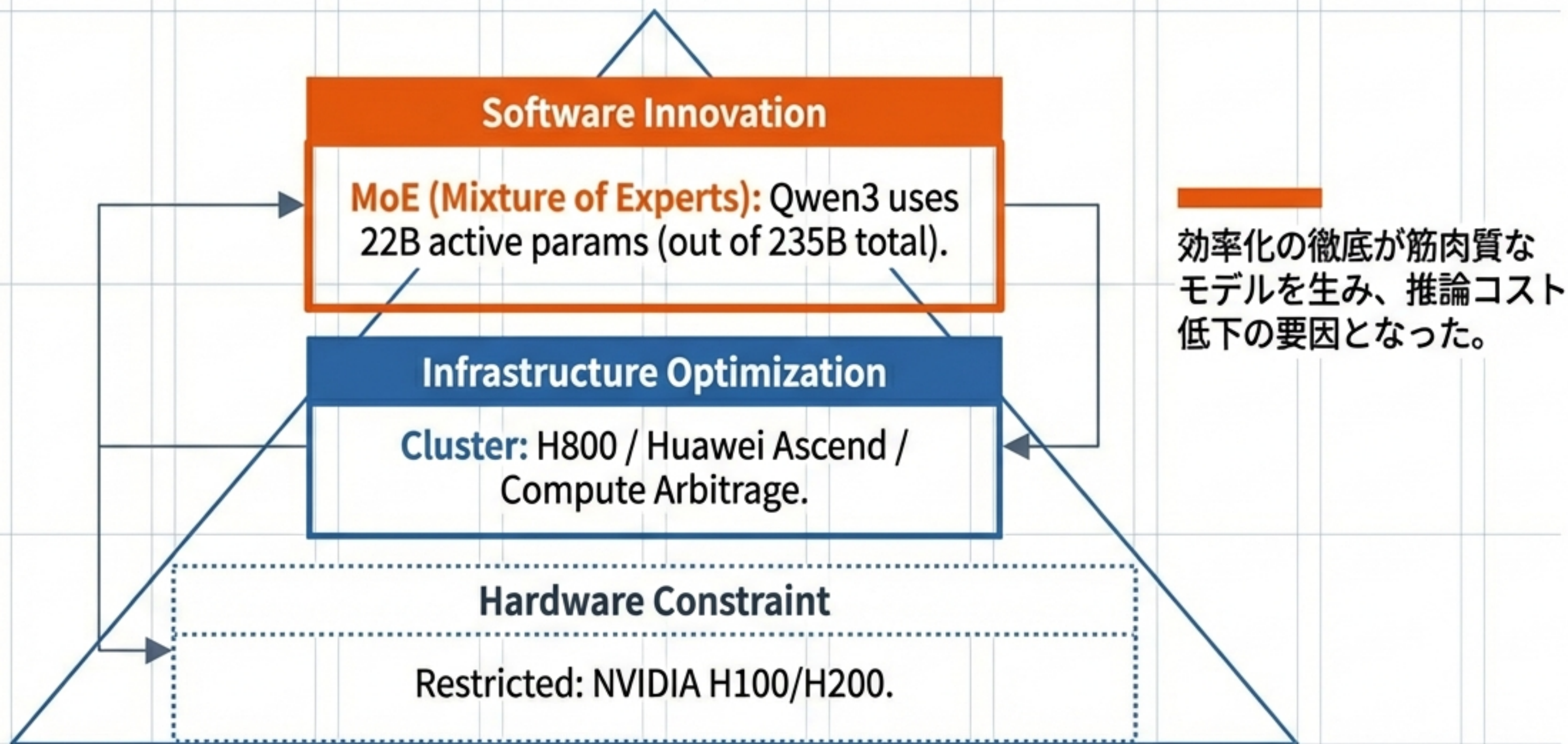


- Status: **The Wildcard**
- Ambition: リアルタイムXデータとAGIへの野心。



制約下のイノベーション：なぜH100無しで戦えるのか？

Software > Hardware. ハードウェアの欠乏がアルゴリズムの「効率性革命」を強制。

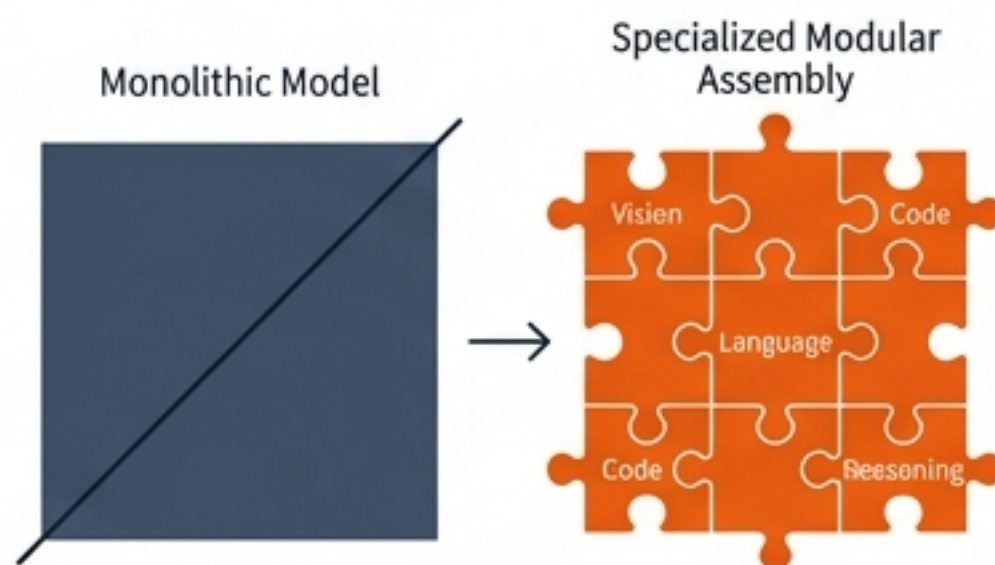


2026年後半の展望：エージェント・スウォームの標準化



01: Swarm as Standard

Kimiが示した「群知能」が業界標準へ。OpenAI (Operator) や Google (Project Astra) も追随。



02: Modular AI

巨大な単一モデル (Monolithic) から、特化型モデルの集合体 (Modular) への移行。

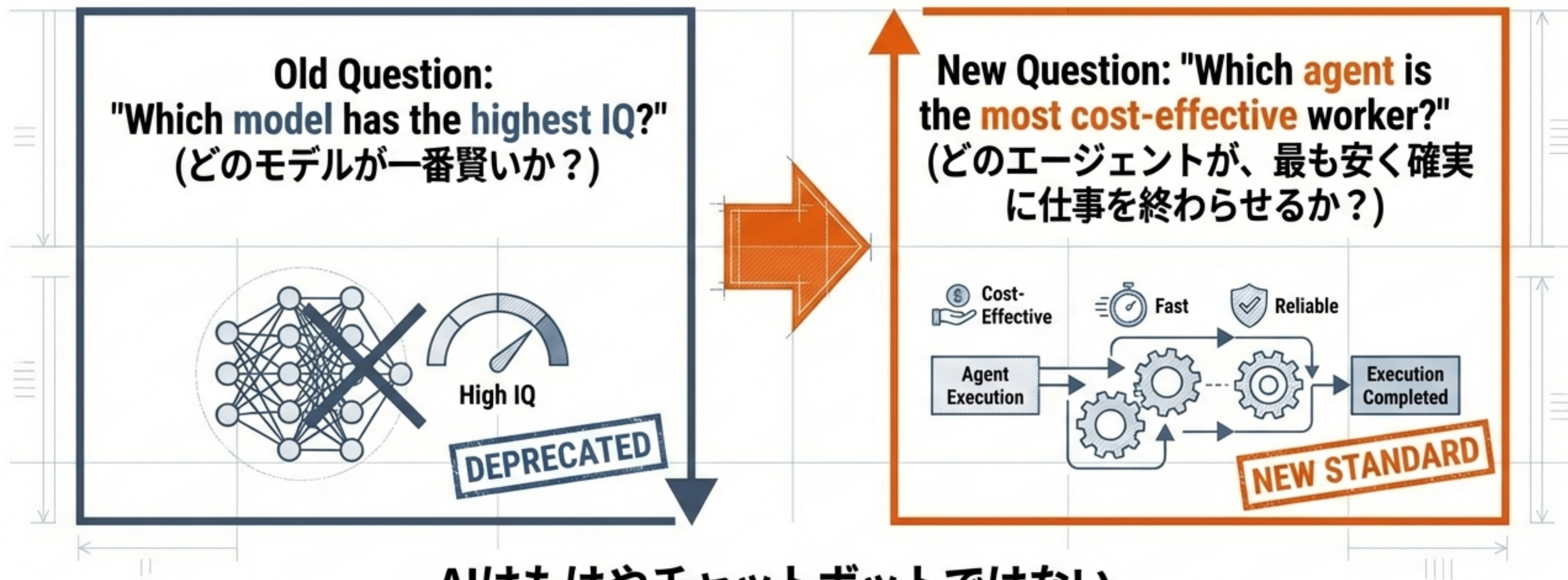


03: Inference Commoditization

推論コストはさらに低下。「対話相手」から「使い倒すツール」へ。

結論：AI選定基準の再定義

戦いは「モデル性能（賢さ）」から「システム実用性（安さ・速さ・確実さ）」へシフトした。



AIはもはやチャットボットではない。
それは、あなたのビジネスを実行するパートナーである。